

## 慢性的痛み感受者と性格類型との関連について

重岡 和信 無敵 剛介 栗栖 照雄 中田 眞槻 糸 静子

The relationship between chronic pain and the pattern of personality

Kazunobu SHIGEOKA Takesuke MUTEKI Teruo KURUSU Maki CHUUDA Shizuko ITO

### Abstract

This research is about the relationship between personality and the perception of chronic pain. Those survey examined two groups: resident of elderly homes/institutions (RH) and older people living at home (LH). All groups were tested with the YG and the Maudsley personality inventory. Each person evaluated his pain by the Face scale. In relation to the YG inventory, each member of RH group separately had a wide range of personality types, but member of LH group had personality types B, D, AB and AD. In relation to the Maudsley inventory, each member of LH group had E0 or E+, but member of RH group had E0 or E-. Regarding the degree of the pain, the RH group perceived pain more severely than the LH group.

Key words : older adult, chronic pain, type of personality, residents of elderly home/institutions, old people living at home

キーワード : 老人、慢性的痛み、性格類型、養護老人ホーム入園者、在宅者

### 目 的

痛みの知覚は、痛知覚者固体の神経生理学的メカニズムに起因するだけでなく、その人自体の心理的要因やその人を取り巻く環境条件によっても起こり得るかあるいは変動すると言われている。

本研究では、「慢性痛」知覚者の性格特徴を2種類の性格検査を通して、痛みの状態との関連を把握する。

### 方 法

被験者群：在宅者群 —— 在宅者で、体育指導者による運動訓練を受けている者、女性7名、平均年齢62.7歳。

在園者群 —— 養護老人ホーム在園者で、独歩、対

話可能な者、女性11名、平均年齢79.0歳、男性2名、平均年齢73.7歳。

性格検査：矢田部ギルフォード性格検査、モーズレイ性格検査。

痛覚部位とその程度：本学「痛みに関する共同研究」で作成した問診表（図1）に基づき、痛覚部位は、身体図像の部位指摘、痛みの程度は、フェイス尺度による自己判定。

在宅者群については、大学研究室において、集団で性格検査を実施し、痛みについては個別に検査した。

在園者については、ホームにおける活動の合間に、4乃至5人が、ホーム介護者の援助を伴い、実験者が性格検査ならびに痛みの検査を実施した。

検査期間：1999年10月から12月中旬。

結 果 と 考 察

1. 矢田部ギルフォード性格検査（以下YG検査と言う）結果の各類型とモーズレイ性格検査（以下MO検査と言う）結果の各類型との関係を示したのが、表1である。表1の縦の欄はYG検査の類型、横の欄はMO検査の類型を表している。欄中の数字は人数で、小数字は在園者、大数字は在宅者を示す。

表1から、在園者と在宅者の分布がはっきり分かれ、在宅者群では、YG検査のDおよびADが半数を占め、MO検査ではE+が大部分である。これらはいずれも積極外向的タイプで、運動の指導を自ら受け、痛み克服に努力していると考えられる。一方、在園者群では、E+、かつADタイプの積極性を示したのは1名のみである。半数は、E-で、外向性の弱いことを示している。また情緒不安定を示すBやEタイプが半数近い。在宅者に比べ平均で17歳の差がある高齢者であり、養護老人ホームという生活環境、慢性的な痛みを抱えている状況を考えると、一概に在宅者と在園者を比較できないであろう。

表1 YG検査類型とMO検査類型との関係

	E-N-	E-N0	E-N+	E0N-	E0N0	E0N+	E+N-	E+N0	E+N+
A		1							
A'						1			
A"	1				2				
B									1
B'					1				
C									
D							1	1	1
E'	1	2							
AB	1				1			1	
AC		1							
AD							1	1	

縦欄：YG検査類型、横欄：MO検査類型、小数字は在園者、大数字は在宅者

2. YG検査類型と痛みの部位を示したのが、表2である。この表では、準型も典型に含めて、集計した。

一人で数部位の痛みを感じている人もいるので、総数は人数を上回る。小数字は在園者、大数字は在宅者を示す。

類型全般にわたって痛みを感じていて、類型間に差は無いと言える。痛み部位は、関節を中心にほぼ全身にわたっているが、類型全体通して訴えた痛みの総数から見ると、腰と膝が同率で合わせて73.3%を占めた。次いで肩の痛みであった。痛みの原因を推察すると、成、壮年期における、生活習慣たとえば、「立ち仕事」、「かがみ姿勢の持続」などが考えられる。

表2 YG類型と痛み部位

YG類型	痛みの部位					
	肩	腕	腰	膝	足、足指	肘、指
A		2	2	2		1
B	1		1、1	1		
C						
D			1	3		
E	1		2	2		1
AB			1、1	1	1	
AC				1		
AD	1		1、1	1		

数値は人数、小数字は在園者、大数字は在宅者

3. YG検査類型と痛みの程度を示したのが、表3である。痛み評価の総数が部位の総数より少ないのは、フェイス尺度で適切に評価できなかったためである。小数字は在園者、大数字は在宅者を示す。類型別にみると、E類型が最も強く、次いでB類型であり、強い内向性と情緒不安定の特徴と対応しているように思われる。

在園者は在宅者よりも強い痛みを感じている傾向があり、心理的に不安定な状況が反映しているとも思われる。

これらのことは、高齢者の場合抑うつ心理状態と持続性の痛みとが深い関係にあることを指摘しているParmelee (1997) と同傾向にある。ちなみに同じ養護ホーム在園者で、慢性的痛みを有しない者10名のYG類型にはEタイプは皆無であり、A、D、ADタイプが大部分であった。

表3 YG類型と痛みの程度

YG類型	痛みの部位					
	肩	腕	腰	膝	足、足指	肘、指
A		7、8	4、6			8
B	2	8、6	4			
C						
D			1	2、2		
E	4			8、8		8
AB			4	4		
AC				6		
AD				8		

数値はフェイス尺度による痛みの程度、小数字は在園者、大数字は在宅者

ま と め

1. 60歳から70歳代の慢性痛感受者の性格を、YG性格検査とモーズレイ性格検査で判定し、各検査の分類類型との関係をとらえた。両検査結果を比較すると、情緒性の観点からはYG検査、向性からはモーズレイ検査が妥当性が高い、神経症傾向については予想の逆で、N+を示

したのは小数であった。

2. 痛みの部位に関して、腰と膝が大部分であるのは、高齢者共通の現象かもしれない。

3. 痛みの程度に関して、A、B、E類型が強い痛みを感じており、情緒不安と強い内向性との関係がみられた。ただし、A類型については、この類型が最も多いという一般傾向からすると、中には強い痛み感受者も存在するであろう。

## 付 記

本研究は、事情により扱われた被験者数が少ないため、一つの事例研究であることを付記する。

なお、コンピューター処理「問診表」の作成に当たっては、本学佐藤匡助教授に援助していただいた。

## 参 考 文 献

- 1) 東山篤規、宮岡徹、谷口俊治他：触覚と痛み、初版、ブレーン出版、東京、2000.
- 2) 市岡正道、佐藤公道：痛みとはなんだろう。丸善株式会社、東京、1989.
- 3) 丸田俊彦：痛みの心理学—疾患中心から患者中心へ4版、中公新書935、中央公論社、東京、1997.
- 4) MPI 研究会編：新・性格検査法 — モーブレイ性格検査 —、初版、誠信書房、東京、1969.
- 5) 岡崎寿美子編著：看護診断にもとづく痛みのケア、初版、医歯薬出版株式会社、東京、1997
- 6) Patricia A. Parmelee: Pain and Psychological Function in Late Life. In Handbook of Pain and Aging, Ed. By D. I. Mostofsky and J. Lomranz, Plenum Press, New York, 207-226, 1997.
- 7) 八木俊夫：YG性格検査 — YGテストの実務応用的診断法 —：第4刷、日本心理技術研究所、千葉、1999.
- 8) 横田敏勝：脳と痛み—痛みの神経生理学、共立出版、東京、1995.

### 「痛み」の質問票

(体に痛みが複数ある方は、一番気になるものをひとつご記入下さい)

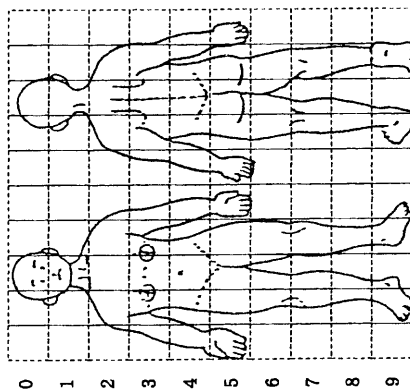
1. 生年月日： 明治 大正 昭和 年 月 日

2. お名前：

3. 体のどこかに痛みが：ある ない

4. 痛みのある方は、その場所はどこでしょうか。(ひとつだけ) 例：

あいうえお かきくけこ



○

5. その痛みを「ことば」で表すと次のどれでしょうか。数字を記入して下さい(ひとつだけ)

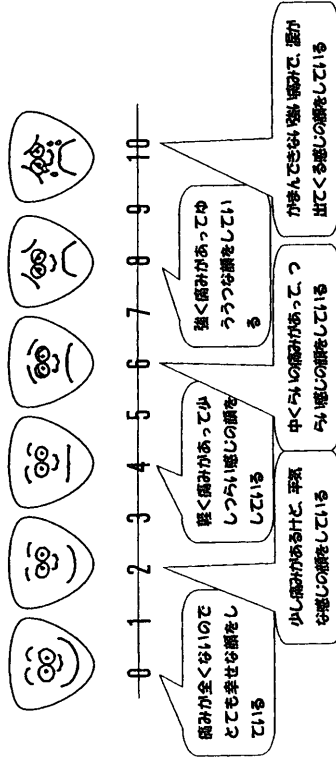
例：  6

- 1. ちくりと痛む
- 2. びりつと痛い
- 3. びくつと痛い
- 4. じわじわ痛い
- 5. じんじんの痛み
- 6. もやもやした痛み
- 7. しびれるように痛い
- 8. そくそく痛む
- 9. 張るように痛い
- 10. びんびん痛い
- 11. 突くように痛い
- 12. 締め付けられるように痛い
- 13. 焼け付くように痛い
- 14. 突き刺すように痛い
- 15. 切られるように痛い
- 16. 引き裂かれるように痛い

図1 問診表

6. その痛みの程度はどれくらいですか。表情の下の数字を記入して下さい(ひとつだけ)

例：  1 0



以上、ご協力ありがとうございます

■

■

○

■

○